

「小児喘息重症度分布と治療の経年推移に関する多施設調査 2020」

1. 研究の対象

2020年10月26日から11月1日に気管支喘息で当院を受診された方

2. 研究目的・方法

目的：小児気管支喘息は、この20年間で大きく変化した小児慢性疾患の一つであり、喘息発作死、救急受診、緊急入院、長期入院患者数は全て大きく減少し、治療の場は、入院治療から外来治療に移行しています。こうした背景には、吸入ステロイド薬、ロイコトリエン受容体拮抗薬などの抗炎症治療薬の役割、治療管理ガイドラインの普及が大きいことは世界的に評価されています。日本小児アレルギー学会疫学委員会では、経年的に、同一の信頼できる喘息専門医療機関における小児気管支喘息患者の喘息重症度分布、ステロイド依存性患児数（割合）の動向を知り、喘息治療の診療活動の検討に役立てることを目的として、2006年より調査を継続してきました。今回の2020年度においても同じ調査を行い、変遷を知ることを目的とします。また、ウイルス感染症は喘息の重要な増悪因子と考えられていますが、今年度の調査では、小児気管支喘息患者における重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2型（severe acute respiratory syndrome coronavirus 2：SARS-CoV-2）の感染による影響を評価します。

方法：2020年10月26日から11月1日に気管支喘息で当院を受診された方について、診療記録から年齢、外来・入院別、性別、病歴、発作頻度、治療薬、コントロール状態等を調べて集計します。

2. 研究に用いる試料・情報の種類

調査項目：症例番号（施設ごとに連結可能匿名化する）、年齢、外来・入院別、性別、発作頻度、治療ステップ、過去1か月のテオフィリン経口投与、過去1か月の長時間作用型 β 2刺激薬、過去1か月の経ロステロイド投与、過去1か月の吸入ステロイド、過去1か月のロイコトリエン受容体拮抗薬の使用状況、重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2型（SARS-CoV-2）の感染の有無と重症度等

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は郵送で行い、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

荒川 浩一 群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野

池田 政憲 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児急性疾患学講座

今井 孝成 昭和大学医学部小児科学講座
大矢 幸弘 国立成育医療研究センター生体防御内科部アレルギー科
楠 隆 滋賀県立小児保健医療センター小児科
住本 真一 大阪赤十字病院小児科
南部 光彦 天理よろづ相談所病院小児科
山口 公一 同愛記念病院小児科
小田嶋 博 国立病院機構福岡病院
西間 三馨 国立病院機構福岡病院
松井 猛彦 村立東海病院小児科
井上壽茂 住友病院小児科
足立雄一 富山大学医学部小児科
在津正文 国立病院機構 嬉野医療センター 小児科
北林耐 国際医療福祉大学
勝沼俊雄 東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科
三浦克志 宮城県立こども病院アレルギー科

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

〒989-3126 仙台市青葉区落合4丁目3-17

電話：022-391-5111（代表）

当院研究責任者：

宮城県立こども病院 アレルギー科 三浦克志

研究代表者：

埼玉医科大学病院 小児科 板澤 寿子